

視察研修報告書

1 委員会名
総務企画常任委員会
2 実施名称（テーマ）
(1) 気象情報の概要について (2) 池袋都民防災教育センターの施設見学、体験 (3) 可搬消防ポンプ等の説明・実演 (4) ぐんまちゃん家の移転後の現状について
3 実施期日
令和元年9月25日（水）～26日（木）
4 実施場所
群馬県前橋市 前橋地方気象台 東京都豊島区 池袋防災館 東京都板橋区 トーハツ株式会社 本社
5 実施目的
(1)災害発生（予想）時における非難勧告など町の住民への対策 (2)災害体験と消火器の使用法・AEDを使用した心肺蘇生術 (3)消防ポンプ（その他機材）導入における知識の向上 (4)群馬・中之条町の情報発信の現状
6 参加者の氏名
委員長 富沢重典 副委員長 佐藤力也 委員 山本隆雄、福田弘明、唐沢清治
7 その他

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名						
	富沢 重典						
2	視察研修の実施名称（テーマ）						
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">近年の異常気象による対応</td> <td style="width: 50%;">前橋地方気象台</td> </tr> <tr> <td>消火器・避難・AED・地震体験</td> <td>池袋防災館</td> </tr> <tr> <td>最新消防機材の視察</td> <td>トーハツ株式会社</td> </tr> </table>	近年の異常気象による対応	前橋地方気象台	消火器・避難・AED・地震体験	池袋防災館	最新消防機材の視察	トーハツ株式会社
近年の異常気象による対応	前橋地方気象台						
消火器・避難・AED・地震体験	池袋防災館						
最新消防機材の視察	トーハツ株式会社						
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）						
	<p>前橋地方気象台： 気象庁がより正確な天気予報を出すために日々努力しているのが解った。予算が厳しく海外のスーパーコンピューターの予測より劣っていること、海外に職員を派遣しているがコアな部分は、教えてもらえないとの事等説明頂いた。</p> <p>鬼怒川が氾濫した時には無かったが、大雨・洪水警報の危険度分布が気象庁のホームページから見られるので上流域の雨量等活用したいと思った。また周知や危機意識のため役場のロビーで常に映せば良いと感じた。</p> <p>池袋防災館： 驚いたのが参加者の多さ、予約制で時間ごとに20名程度でスタートしていくのだがいつもいっぱいだという事だ。そしてリピーターが多いこと、我々と一緒だった人たちは企業の研修で定期的に来ているようで、危機意識の高さを知った。</p> <p>中之条町も防災フェアをやっているが改めてその必要性も感じた。また災害はいつ来るか分からないと毎週金曜日に夜の体験も行っていて体験してみたいと思った。</p> <p>トーハツ株式会社： 普通車の免許で乗れるよう3.5t未満の可搬消防ポンプを開発し、実際に視察できた。この消防車は、可搬消防ポンプを積載したまま搭載ポンプ車のように使用でき便利だと感じた。また自動中継機能付きポンプも視察でき、中継のところに人がいらず団員確保の難しい時代に合った素晴らしいポンプだと感じた。その他、給水管を浮かせて下から吸い上げるフローティングストレーナや土嚢に代わるボックスウォールも軽くて設置や持ち運びが便利だと思った。</p>						
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）						
	町民の防災意識の向上						

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	佐藤 力也
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	② 災害発生（予想）時における非難勧告など町の住民への対策（前橋地方気象台） ②災害体験と消火器の使用方法・AEDを使用した心肺蘇生術（池袋防災館） ③消防ポンプ（その他機材）導入における知識の向上（トーハツ株式会社）
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	①前橋地方気象台では、台風などによる河川の氾濫や土砂災害等の発生する危険性があると判断した場合の町との連絡の仕組みを説明いただきました。 当町では、大雨による土砂災害が一番身近な災害として考えられますが、正確な情報を迅速に町民に発信すること、そして安全な避難場所の確保および点検が今後の課題だと感じました。 また、天気予報の的中率を上げるには今後どのような技術改革等が必要か質問したところ、予報の精度を上げるには、アメダスなどの観測地点の数を増やし、そのデータを収集し解析するためのスーパーコンピューターをグレードアップすれば良いと、意外と単純な回答をいただきました。 要するに国が、そこに予算をつけるか次第で、精度の高い天気予報が提供できるとの事でした。 ②池袋防災館では、体験ツアーで地震・火災体験・AEDを使った心肺蘇生法や消火器の使い方の講習などを行いました。我々の他に20人ほどの一般来場者が参加しており、中には千葉・埼玉から自治会のグループで2回目・3回目の参加者もあり、南海トラフ地震・首都直下型地震などの災害への関心の高さに驚きました。近年、地球温暖化の影響からか、今まで災害の被害が無かった場所でも、全国各地で異常気象による災害が発生しています。当町でも、今後いかなる災害に見舞われるか判らない状況にあると考えられます。今後、災害に対して準備と訓練が重要だと考えます。一人ひとりが防災意識をしっかりと持ち、災害から命を守れるよう、町が考えていく必要があります。9月15日付けで、当町出身で自衛隊を定年退職された若山晃氏が地区防災計画担当嘱託職員として採用されました。今後の活躍に期待いたします。 ③トーハツ株式会社は、船舶のモーターエンジンや消防ポンプを主に製造する会社です。当消防団でもこの会社が製造した小型可搬ポンプを導入しておりますが、近年、全国的な消防団員不足に対応して元ポンプとしての機能はもとより、中継ポンプとしての機能の進化を遂げた新型ポンプの送水試験を見せていただきました。このポンプの特徴は、給水口より水がポンプに入ると、自動でスイッチがONになり元ポンプから送水される水圧自動で調整する事が可能なため一度ポンプにホースを繋いだら、人がポンプにつかなくてもよい優れものでした。一気に圧がポンプに掛からないためのオプション器具も開発されており、今後ポンプ入れ替えに際して機能と経済面での選択肢が広がった気がしました。 当町でも年々消防団員の数が減り、有事の際の消火活動また、ポンプ操法大会への参加に伴うポンプの選択に活かしていければ良いと思います。
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	総務企画常任委員 山本 隆 雄
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	異常気象や高齢化による防災体制や意識改革と安心安全な町づくりの為に、必要とされる器具用具や施策と取り組みについて、
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	<p>令和元年9月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前橋気象台視察は吾妻東部施設衛生組合の議会の為欠席し、関越自動車道上里パーキングでの合流して正午に加わった。 ・公益財団法人、東京防災救急協会・池袋防災会館で目的と趣旨について明石徹館長らから説明を受け、関東大震災や東京大空等の恐ろしさを持つ東京は地方から多くの人が集まり人口密度が高くなっているため防災意識の高揚を図ろうとしている。池袋防災会館は火災・地震や人命救助などの体験経験が出来る。多くの防災組織を結成して体験を重ねることにより有事の際に効力が発揮でき、ポイント制度で5回受講すると修了書が授与される仕組みになっている。東京は人口が多いので30人位のグループが続けて受講していた。女性や学生が多く自主防災意識が東京でも始まっていると感じた。 <p>9月26日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トーハツ株式会社、山間地や密集地に置ける小型消防ポンプ 防災営業部、桑沢克彦営業主任より会社、開発関係の説明を受け、人口減少と高齢化による消防団員のなり手不足から開発が進んでいる小型消防ポンプ活用受け、狭小道路や山林火災など水利のない所は人手が必要とされているが自動で中継ポンプが稼働する新型で今全国から注目を得ている。実演を研修した。当町でも適している地域があると思われた。 ・ぐんまちゃん家 宮崎所長の挨拶と情勢報告を受け、今年開催したビエンナーレパスポートも60万円多く販売された。昨年の6月に移転をして県内産の食材にこだわるレストランをオープンした。昨年に比べ高級感が表れてきていた。県内の産物があり当町の貴娘や沢田の味などがあり品揃えも多くなっていたレストランも川場田園ブラザが受け高級レストランになってきており政治家や有名人が訪れてきており場所的には問題があると思いますが徐々に知名度が上がればと思われた。 人口密度の高い東京は何かの有事の時は大きな人身事故が起きると思われ絶えず防災体験を繰り返している事に感心し、危機感を持っている人も居ると感じた。 当地域も関係者だけで危機管理をしているのでは無く人口減少と高齢化が進んでいる地域こそ自主防災体制の整備が求められると感じた。
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	福田弘明
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	前橋气象台 池袋防災館 トーハツ株式会社
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	<p>○前橋气象台：産業、生活すべてに影響を与える気象、火山、地震。大変関心のある視察先であった。私自身もほぼ毎日、天気図、アメダス観測データを、そのほか雨天、天候が崩れそうなどときには高解像度降水ナウキャスト、降水短時間予報、レーダー・ナウキャスト、台風情報などをこまめに利用させて頂いている。各分野の詳細な説明を受けたが、台風進路予測についてアメリカ軍台風進路予想、ヨーロッパ中期予報センター、日本気象協会で違いがあることについて、1944年6月6日のノルマンディー上陸作戦の成功の裏には当日の天候判断について連合国側は、天候は回復に向かうと予測し、ドイツ軍側はこのまま悪天候が続き上陸作戦はないと判断していたことと合わせて伺ったところ、ヨーロッパに職員派遣しているが核心の部分は教えていただけないとのことなので、気象学はいまでも機密の部分があるのだなと改めて感じた。注意報・警報など現状の判断については観測網を整備していけば的確な情報を提供できるだろうが、予想にかかわることについてはさらなる日本独自の探求が必要なのであらうと改めて感じた。</p> <p>○トーハツ株式会社：このメーカーの主力は、車体の中にポンプを組み込んだ消防自動車でなく、車に搭載する可搬ポンプを主に製造していることが特徴。可搬ポンプは当町のような山間部では河川、沢等に水利確保を求める際には大変活躍するものだということは承知していたが、街中でも阪神淡路大震災の際、道路の通行が確保されない状況時に災害現場での利便性が見直された。との話には、なるほどと思った。消防自動車は自動車運転免許の改変により中型免許がなければ運転できなくなってしまったが、可搬ポンプを搭載し、積載状態のままでも利用でき、なおかつ普通免許で運転できる消防自動車を開発されていたがこれも面白い発想だった。他に、遠隔地の火点に複数のポンプを繋ぎ送水する際、送水圧力の変動でのホース破裂を圧力を逃がすことにより防ぐ、逃し弁付き中継媒介金具、給水管の先端が蛇籠でなくフロート（浮子）の下側に吸水口を付け、向きを下側のみとし、浅い水深の場合の空気の吸込み防止と吸水可能最低水深2cmを実現した器具も大変参考になった。</p>
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	唐沢 清治
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	<p>1) 気象情報の概要について</p> <p>2) 池袋都民防災教育センターの施設見学、体験</p> <p>3) 可搬消防ポンプ等の説明・実演</p> <p>4) ぐんまちゃん家の移転後の現状について</p>
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	<p>1) 気象情報は、法律によって気象庁が行う。各気象台から市町村そして国民へと流される。また報道機関を通じて流される。</p> <p style="padding-left: 2em;">市町村防災支援として平時は台長や地域担当チームと顔の見える関係を構築、緊急時は町長とのホットラインが設けてある。また地域防災計画作成等の指導を行う。</p> <p style="padding-left: 2em;">集中豪雨等の予測改善にはコンピューターの高度化、観測データの多様化などにより数値予報モデルの技術開発強化が望まれる。中之条町では、六合地区と中之条地区では、気象状況が違うので住民が容易に気象情報を知ることができればと思う。また異常気象に備え地域に合った地域防災計画を早急に作る必要があると思った。</p> <p>2) 池袋防災館では、地震、煙、消火、救急、各コーナーの体験を行った。地震体験では、まず身の安全を考える。机の下で震度7の体験、何もすることができないことを知る。煙体験では、煙の特性を知り冷静な判断をする事が必要、避難経路などを前もって知っておくことが大切。消火体験では、大声などで火災を知らせること、消火器の使い方、対応できないときは、逃げることを知る。救急体験では、救急車を呼ぶこと、AEDの確保、身体状況の確認。心肺蘇生の仕方、それをやり続けること、AEDの使い方、AEDの言う事をよく聞き、その通りにする事を学ぶ。</p> <p>3) 可搬消防ポンプ等の説明・実演</p> <p style="padding-left: 2em;">トウハツ株式会社では可搬消防ポンプを搭載した普通自動車免許で運転できる3.5トン以下の搭載車を開発。ポンプ車と同じに可搬消防ポンプを搭載したまま2線で放水でき何ら普通のポンプ車と変わらない。可搬ポンプとして自動で車から降ろして使用できる。中之条町でも導入に向けて検討してもいい商品だと思った。また仕付けて置けば全て自動で中継してくれる可搬ポンプの実演を見た。人手のない中、火災場所によっては素晴らしい活躍が期待できる商品だと思った。</p> <p>4) ぐんまちゃん家の移転後の現状については以前の場所の方がよかったと思われるが、レストラン経営で政界等の繋がりを持ちピーアール活動をしているようだ。中之条ビエンナーレのチケットも扱ってくれたようだ。12時と3時には路上でぐんまちゃん。人気だった。</p>
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
	住民一人一人が如何に防災意識を持つか組織やコミュニケーション作り等をいかにするかの研究。